

# 石井っ子だより

平成28年9月1日発行

9月号

発行責任者 紺野 宗作

## 2学期がスタート！……チャレンジする子ども達！

いよいよ2学期が始まりました。今年の夏は、リオデジャネイロでオリンピックがありました。瀬戸際まで追い込まれたとき、「最後まであきらめない気持ち」がいかに大切なことであるかを学んだオリンピックでもありました。始業式では、卓球の石川佳純選手の話をしていただきました。どんな話だったかは、お子さんを通じてお聞きくださるとありがたいです。

夏休みには、二本松市水泳大会がありました。4年生以上の参加でしたが、二本松市内の学校では、一番多いエントリー数でした。それだけチャレンジする子ども達が多かったことの証明です。素晴らしいことです。出場したある6年生に「記録はどうだった？」と聞きましたら、「入賞はできなかったけれど自己ベストでした。」とうれしそうに報告してくれました。勝敗も大事ですが、精一杯練習しベストを尽くすことで、人はすがすがしい気持ちになれることを改めて気づかされました。また、石井スポーツ少年団男子バスケットボール部が、東北大会優勝。県内外に石井スポーツ少年団の名を轟かせたことも、うれしいニュースでした。これらの石井っ子の頑張りは、2学期の学校生活に生きてくるものと確信しています。

さて、2学期は、鼓笛、マラソン大会、石井っ子発表会など大きな行事が目白押しです。ぜひ、参観いただき、子ども達の成長を見て、温かい励ましの声かけをしていただければ幸いです。

## 祖父母授業参観(ファミリー参観)お待ちしております！

祖父母参観(9/16)については、すでに案内が届いているかと思いますが、今年度初めての試みです。石井小学校では、3世代同居の家庭も多く、兼ねてから学校に祖父母参観開催の要望が届いておりました。下記のような内容を予定していますので、祖父母に限らず、家族そろって参観くださいますようお願いいたします。

(祖父母授業参観予定・・・詳しくは学年だより等でお知らせします)

- 1年.2年 生活科 昔の遊び(あやとり、けん玉など)と一緒に遊んでください。
- 3年 図工科 小刀を使って作品を作ります。小刀の使い方を教えてください。
- 4年 図工科 新聞紙を丸めて造形遊びをします。一緒に作品を作りましょう。
- 5年 総合 老人ホーム等を訪問したことを生かした体験的学習を行います。
- 6年 総合 修学旅行の時の様子をまとめて発表します。どうぞご覧ください。

### 「ブックカフェ」のご案内

授業参観の前30分間を利用し、福島県教育公務員弘済会より寄贈いただいた絵本(10万円相当)を展示する「ブックカフェ」(校舎1F連絡通路)を開催します。高学年が読む絵本等もありますのでぜひお越しください。なお、絵本等の説明は、いつもお世話になっている石井っ子協力員の安達幸子さんがやってくれます。「本を読むと心が旅をする」と言われております。普段の生活の中やテレビから流される情報から夢を見つけることもいいですが、本を読むとその選択肢は限りなく広がります。ぜひ、お子様と一緒に本を読んで、一緒に夢を見つけて欲しいです。

## 佐川二亮氏の家読(うちどく)講演会

# 「家族で読みニケーション～家読(うちどく)で深める家族の絆～」

今回の祖父母授業参観(9/16)では、講師を招き「家読講演会」を開催します。

「家読(うちどく)」は、「家族ふれあい読書」の略語(造語)で、家族みんなで読書をする事で「家族のコミュニケーション」を深めることを目的とした読書運動です。「家読(うちどく)」運動は学校の「朝の読書」運動の家庭版として2006年に提唱されました。この運動が提唱された背景には、電子ゲームやインターネット、携帯電話からスマホへと子どもたちを取り巻くメディア環境が著しく変化し、メディア漬けになった子どもたちの心は不安定な状態になったり、家族との会話が少なくなったという現代の社会的問題を、読書という方法で和やかな家庭環境をつくり、家族のコミュニケーションを図ることで「家族の絆」を深めることへの提案型読書運動です。本校でも、「家読運動」と「ノーメディア運動」をセットで展開し、子ども達を健全育成していきたいと考えています。

### 家読(うちどく)で夢に向かいましょう

「平日に2時間以上テレビやゲームをする子は、自分の夢を叶えることはできない。」

とされています。今や家庭は、電子メディアの浸透で、同じ屋根の下に住んでいても、別々の時間を過ごすことがおおくなっています。家庭の役割が薄れているのです。家読(うちどく)を行うことにより、下記のような家庭の教育力が向上すると言われています。このことは、お子さんが夢に向かって一歩ずつ進んでいくことにつながります。

#### ○家族のコミュニケーションの場を確保できます。

家読(うちどく)を行うことで、慌ただしい毎日の中にも質の高いコミュニケーションを確保できます。さらに、家族の絆を深め、夢を育てることにつながります。

#### ○テレビの見過ぎ、ゲームのし過ぎに気を配るようになります。

家読(うちどく)をするときは、テレビやゲームは必要ありません。テレビを消してゲームをやめて、静かな雰囲気の家読(うちどく)を行うことにより、静かな雰囲気に慣れていきます。きっとテレビの見過ぎやゲームのし過ぎに気づくでしょう。

#### ○親が読書する姿を見せることができます。

絵本には感動したり深く考えさせたりするものがたくさんあります。今や絵本は子どもだけが読むものではありません。一緒に本や絵本を読んで、親が本を読む姿を見せてください。

#### ○家庭内の言葉が磨かれます。

親子であっても言葉を交わすためには、言葉を選びます。自分が伝えたいことを言葉を選びながら伝える。そのことを積み重ねることにより、家庭内の言葉磨かれていきます。

出典 家読.com

### 講師紹介：家読推進プロジェクト代表 佐川二亮(さがわつぐすけ)氏

○ 福島県矢祭町生まれ。平成7年「朝の読書」を提唱した高校教師らと朝の読書推進協議会を創設して同運動を全国の学校に広める運動を展開しました。また、「朝の読書」の家庭版として「家読(うちどく)」運動を立ち上げ、現在全国の自治体や図書館、学校関係者らと、「家読」運動に取り組んでいます。今回、家庭での読書の大切さ、地域ぐるみで実践できるヒントとなるお話をいただきます。